

広報すぎなみ



# Suginami



みどり豊かな 住まいのみやこ

3/15  
令和5年(2023年)  
No.2349

漫画の中に流れる  
いつもの大切な日常。

阿佐谷・高円寺を舞台にした話題の漫画「ひらやすみ」。平屋で同居するフリーターのヒロトと、いここで美大生のなつみちゃんを中心に、さまざまな人たちの、等身大で温かい人生が描かれています。見慣れた商店街、歩道橋…作中には実在する場所が多く登場。作者の真造圭伍先生に作品への思いを伺いました。

hirayasumi shinzo keigo × 特集 ▲ すぎなみナビト



漫画家

真造圭伍

☎ 166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課



お知らせ

新型コロナウイルスの感染状況によっては、本紙掲載の催し等が変更・延期または中止になる場合があります。最新情報は、区ホームページをご確認ください。

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。



プロフィール：真造圭伍（しんぞう・けいご）漫画家。昭和62年1月23日、石川県生まれ。小学館スピリッツ賞への投稿を経て、平成20年、「週刊ビッグコミックスピリッツ」掲載の『なんきん』でデビュー。平成21年より「月刊！スピリッツ」で『森山中教習所』を連載開始。同作は、実写映画化もされる。平成27年から連載した『トキョーエイリアンブラザーズ』は実写ドラマ化もされた。その他の代表作に『ぼくらのファンカ祭』『みどりの星』『ノラと雑草』など。現在、「週刊ビッグコミックスピリッツ」にて『ひらやすみ』を連載中。



「マンガ大賞2022」第3位！

約6年間、真造圭伍が実際に生活をしてきた、阿佐谷や高円寺などを舞台に。



作品介绍

生田ヒロト、29歳、フリーター。定職なし、恋人なし、普通ならあるはずの？将来の不安も一切ない、お気楽な自由人です。そんな彼は、人柄のよさだけで、仲良くなった近所のお婆あちゃん・和田はなえさんから、タダで一戸建ての平屋を譲り受けることに。そして、山形から上京してきた18歳の従姉妹・なつみちゃんと2人暮らしを始めました。しかし、彼の周りには生きづらい“悩み”を抱えた人々が集まってきて……先が見えず鬱屈した“今”だからこそ、あなたの心をスッと癒やしてくれる物語です。

思い出深い阿佐谷や高円寺、「やっぱり好きだな」としみじみ思います



描きたい要素がたくさんあり漫画の舞台に

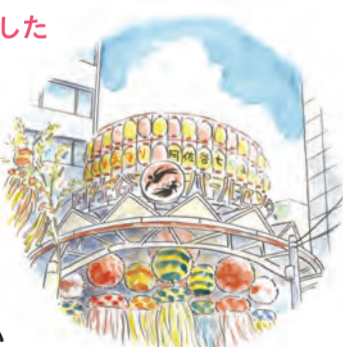


—「ひらやすみ」が生まれたきっかけを教えてください。

釣り堀を舞台にした漫画を描きたいな、という思いが最初にありました。そこで主人公のアルバイト先を釣り堀にしようと決めました。僕自身が特に釣りが得意といったことはないのですが、なぜか昔から釣り堀が好きで、あの独特の空間にずっと興味があったんです。漫画に出てくる釣り堀は、実際に阿佐谷にある釣り堀「寿々木園」をモデルにしています。当時高円寺に住んでいて、その存在はずっと気になっていました。

—漫画の舞台そのものも、阿佐谷・高円寺を中心とした杉並のまちに設定したのはなぜだったのですか？

商店街をはじめシンボリックな建物が多く、描いてみたい要素がたくさんあったからです。例えば阿佐谷パールセンターの入り口だったり、阿佐谷七まつりの風景だったり。阿佐谷北の歩道橋は、主人公のヒロトが大学生活に悩むなっちゃんに「くよくよ考えたってしょうがないじゃん」と伝えるシーンに取り入れました。僕はあの歩道橋が好きで、上から眺める中杉通りの景色が、なんだかすごくいいんですよね。



—ほかに印象深いと感じている杉並の風景はどこですか？

今回表紙を撮影し、漫画にも登場する高円寺のエトアール通り商店会は、引越してきて初めて見た時にすごく感動した場所です。ちょうど、通りに

提灯が灯る時期で、その提灯が本当にきれいで大好きになりました。残念ながら今回の撮影では提灯はなかったのですが、また灯るときがあればぜひ来たいです。高円寺を歩いていると目に入ってくる白い鉄塔も印象的で、僕にとっての高円寺のシンボルでもあります。それから、あの辺りは暗渠がたくさんあって、細く続く狭い道を歩いていると楽しいですね。川べりの緑道を歩くのも好きで、よく散歩していました。小さな居酒屋さんや定食屋さんなど、居心地のいいお店がたくさんあるのも魅力です。漫画の所々にそうした実在の場所がちりばめられ、登場しているの



—阿佐谷や高円寺は、先生の目から見てどんなまちですか？

20代のアシスタント時代に高円寺へ通い、その後6年間、阿佐谷・高円寺エリアで生活しました。今は違うまちへ引っ越してしまいましたが、離れてみると「やっぱり好きだな」と思います。なんというか、駅とまちの境界線がないんですね。夜中まで飲んでいてもにぎやかで、いろんな人がたくさんいて、なんだかほっとする。しみじみ、いいまちだなと思います。

季節の変化、空気や匂いまで伝わる漫画を描きたい

—「ひらやすみ」には、どこか身近に感じられる人がたくさん登場します。人物の設定にはどんな思いが込められているのでしょうか？

できるだけ自分がリアルに感じたことを、人



物の描写でも表現したいと思っています。主人公のヒロトに関しては、この物語を構想していた頃、ちょうど自分が30代前半で。周りが結婚だったり仕事だったりいろんなことをきちんとしていて、変わらざるを得ない時期だったりする中で、例えば「飲みに行こうよ」と誘ったときに二つ返事で「いいよ」と変わらず言ってくれる、そんな29歳を描きたいと思いました。ヒロトはマイペースで変わらない一方で、美大生のなっちゃんは少しずつ変化していく。そんな二人の対比が生まれることも意識しました。



—日常的出来事が丁寧に粛々と描かれている点も、物語を身近に感じさせます。



季節の変化、その時の空気、匂いまで伝わる漫画を描きたいといつも心掛けています。年齢を重ねてきたからか、なんだか年々自然が好きになってきていますね。今の時期は「梅が咲いたな」とか「メジロがいるな」とか、まちの中の小さな季節の変化に日々心を動かされています。あとは、光の変化も大切にしています。朝の光、屋下がりの光、暖かい日と寒い日の光…季節や気候や時間で違ってくる光の感じ方まで、描き分けて表現できればと思っています。

—これから描いてみたい風景はありますか？

今日は阿佐谷地域区民センターでインタビューを受けていますが、ここ

の屋上にある「阿佐谷けやき公園」は、まさに今描いている最中です。芝生があつてまちを一望できて、いいところだなと思って。単行本では6巻に入る予定ですので、楽しみにしてください。

—阿佐谷や高円寺に住む人、このまちを愛する人にとって、「ひらやすみ」がどんな存在になってほしいと願っていますか？

先日、区役所で開催した原画展には本当にたくさんの方に来ていただき、メッセージもたくさん頂けてとてもうれしかったです。この漫画を読んで気持ちが癒やされてもらえたら何よりです。また、漫画に描いた当時はあつたけれど今はもうなくなってしまった場所もありますので、そんな意味では、懐かしさも感じながら読んでもらえる作品になっていくのかなと思っています。

真造圭伍先生のサイン本をプレゼント!



第1巻を抽選で5名に

応募方法

LoGoフォーム(右2次元コード)または、はがきに郵便番号、住所、氏名、年齢、「広報すぎなみ」の感想・意見を書いて広報課広報係/応募期限=4月1日(消印有効)

【対象】区内在住・在勤・在学の方

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。応募の際に得た個人情報は、プレゼントの発送のみに使用します。 広報課広報係

